

牛久市島田町の古民家（空き家）活用プロジェクトの概要 「みんなでつくる竹取物語プロジェクト」

◆ 古民家（空き家）を拠点にコミュニティビジネスを展開する。

・多様な人々が協働で地域や社会の課題と取り組む拠点として古民家を活用します。

過疎地域が抱える課題に地域内外の多様な主体が協働で取り組むことで、過疎地域を活性化するモデルを、茨城県牛久市島田町で当団体が借り受けた古民家を拠点に実施します。当地域は、少子高齢化が進み独居老人の増加や空き家の増加、耕作放棄地や放置竹林の増加などの問題を抱えた典型的な過疎地域です。参加対象は、地域の住民や小中学校、障がい者施設、ニートや引きこもりの就労支援組織、企業等を計画しています。これらの多様な人々と共に新たなコミュニティを形成し、古民家カフェや民泊、ホースセラピー、セミナー、イベント開催、放置竹林整備、森林整備、耕作放棄地対策などを分野の壁を越える展開を、小中学校の総合学習「地域課題の解決に向けたビジネスモデルづくりの学習」を軸に実現していきます。

・地球温暖化防止や循環型社会のモデルとして

本事業では、古民家カフェやイベントを通して、地域内外の多様な人々や組織を引き寄せ、地域のコミュニティの活性化や放置竹林、森林整備、耕作放棄地、空き家等の対策を行います。竹や木など地元の資源を燃料や食器などに有効活用し、脱化石燃料、地球温暖化防止、脱プラスチック等の取り組みを推進します。特に、地域に増大している膨大な量の竹資源の有効活用に取り組みます。

古民家に隣接する霞ヶ浦の水源地谷津田の再生を行い蜚等の生物多様性を復元します。

また、本事業を契機にして、島田町内で当団体が実施している無農薬無化学肥料栽培による野菜や米などを古民家カフェや民泊などで活用します。

・昔の暮らしを体験する場に

竹や薪で炊飯をしたり、藁ない、畑仕事、山掃除などの昔の暮らしを体験する場として、古民家を活用します。牛久市内をはじめ東京など都市部の学校を誘致します。

・馬を導入する計画。

また、馬を導入することで観光的な要素を導入し多くの人を誘致すると共に、馬の放牧によって耕作放棄地の効率的かつ広域的な整備を実現させていきます。森の中の散策路の整備やホースセラピーの実施なども行なっていきます。馬糞を田畑の肥料として活用します。

・水源地保全再生のコミュニティビジネスを霞ヶ浦流域各地に広げていく拠点に。

これらの取り組みをコミュニティビジネスとして確立し、アサザ基金が霞ヶ浦流域各地で

展開している水源地谷津田再生地域へと普及させていきます。将来的には、各地域のコミュニティビジネスをネットワーク化しコンソーシアムを設立するなど、霞ヶ浦流域の広域のかつ総合的な保全システムへと発展させ、霞ヶ浦再生と流域レベルでの循環型社会の構築へと繋げていく計画です。

○ 本事業は企画段階から、小中学校の総合学習と一体化した形で実施します。

本事業をカリキュラムに組み込み、生徒が地元住民からの聞き取りや実態調査を行い放置竹林対策やカフェ・イベント等の企画づくりから参画していきます。対象の小中学校は、コミュニティスクールに指定され地域住民や当団体が学校運営に参画する協議会が設置されています。本事業は、この協議会と連携して実施する計画です。本事業によって、地域と一体化した学校運営の先進モデルをつくることができます。

縦割りの壁を越えた総合的かつ効率的な事業を実現させる能力が、これからの社会では求められます。本事業は、社会の注目を集めている過疎化や高齢化、耕作放棄地などをテーマとして、新たな発想（問題解決型から価値創造型への転換）を提供することができると確信しています。これからの社会が直面していく様々な課題にある背景や問題の本質を早くから学ぶことで、問題解決能力を持つ優秀な人材を育成することが期待できます。

○ 認定 NPO 法人アサザ基金の活動概要

日本で二番目に大きな湖霞ヶ浦とその流域の環境改善を進め、持続可能な循環型社会を構築するため、環境保全と地域づくりを一体化した取組みを1995年から実施してきました。広大な湖と流域をカバーする取組みを実現させるために、農林水産業や地場産業、企業、学校、市民団体、行政等の多様な主体と様々な事業を興し、社会の縦割りの壁を越えた協働の輪を広げてきました。これまでに、延べ32万人が参加、取組み（縦割りの壁を溶かし多分野に事業展開できる社会的起業家の育成）を広げるために、全国各地350校以上の小中学校で出前授業（地域に根ざしたビジネスモデル作り、地域ブランドづくり、まちづくりの提案など）を行ってきました。常に新しい領域への挑戦を続けています。

霞ヶ浦に植生帯を再生する事業に、170以上の小中学校、延べ15万人を超える小・中学生が参加しました。水田の耕作放棄により深刻化している霞ヶ浦の水源地の荒廃を食い止めるため、8つの企業と協働で谷津田再生事業を行い、完全無農薬で酒米を栽培し地酒を生産するビジネスモデルを各地で展開してきました。霞ヶ浦で増加し問題化している外来魚を漁協に捕獲してもらい、魚粉に加工した外来魚を流域の農協で野菜の栽培で利用してもらい、流域のスーパーで販売するビジネスモデルを展開してきました。多様な協働により様々な課題に取り組んできました。

牛久市では、2004年から教育委員会の委託を受け、市内の全小中学校で持続可能な社会づくりへの学習(ESD)を行ってきました。学習のテーマは、各学校の地域特性にあわせ、環境のみならず福祉、産業、過疎化対策、防災など多岐にわたり、問題解決型から価値創造型（問題解決につながる事業提案づくり）への意識転換を生徒に促しています。

2019. 12.12 認定 NPO 法人アサザ基金

参考資料

おくの農業教育学校（おくのキャンパス）

ESD 系統的な学びの流れ（案）

中3

9年間の学びを自分なりに定着化し、自らが見出した地域の可能性を自分のこれからの生き方と重ね合わせて振り返る。地域に帰還する。

修学旅行などの他地域での体験をとおして、地域の自然や文化の特色を理解し、自分の言葉で地域の魅力や良さを自覚と誇りを持って語れる人になる。「自然環境に向けて学ぶ姿勢、問題を持つ」

中2

地域の担い手となることを意識して将来の夢の実現を考える。地域社会の担い手、作り手として働くということの意義を考える。【キャリア教育】

今の自分に知識や経験など何が不足しているか、何を学び自己実現に向けてどんな力を付けなければならないかを自覚する。
「地域や社会への参加意識」

中1

良野の良き【ありがたの繋がり】をもっと増やしていく方法を考える。地域の課題や問題をより広い視野で、社会共通の問題として捉える。

小学生時代の学習を振り返り、自分たちの発見をより具体化し表現するために、地域の特色や良さを生かし資源化する方法を考える。
「地域や社会をより深く知りたいという意識」

自分たちの将来や夢を地域社会で実現するために何が必要かを考える。（生きる力）

6年

6年間の学習を振り返り「未来の良野」を発見。地域の自然、文化、歴史を生かしたまちづくり。

良野の特色や良さに気づき、地域の未来に想像を持つ。
→良野が好きになる。「もっと良くしたい」
「地域の良さを誇りたいという意識」

5年

良野の文化と歴史を学び、地元に関わるお宝を発見し、昔中々にあった繋がりを知る。地域の自然を生かした持続可能なまちづくりの文化・土地利用の歴史と時代変化を知る。

自然や地域の特色を生かした地元の文化や暮らし、歴史を知る。人の暮らしと生き物との繋がりがあふれること（里山環境）を理解する。なぜこの場所に自然や文化や歴史があるのか、現在の歴史的な変化、昔の暮らしから、今日の環境問題解決のヒントを得る。
「地域の歴史や文化の継承者になりたいという意識」

4年

良野の課題を見つける。生きものなど、他者の目になって見直すことで気づく問題。なぜ、繋がりが失われたのか？環境問題の背景にある地域の課題
例：地域の自然環境破壊→耕作放棄地・森林の荒廃→生物多様性の低下、ゴミ問題

地域や社会が抱えている課題や問題には、海外も含めた他地域や共通のものが多いことに気づく。地域環境化、水汚染、生物の絶滅など、→他地域との交流の重要性に気づく。
「他地域の文化・価値を知りたい、自分の考えを伝えたいという意識」

3年

生きものと環境のつながり。良野には多様な生き物が生息していること、それらの生き物くらしを支える様々な環境があることに気づく。ありがたの繋がり。

生物と環境との繋がりの大切さを知る。生物の目を通して良野の特色に気づく。人と生き物との繋がりに目を向ける。
「つながりをキーワードに、地域をより深く理解したい知りたいという意識」

2年

それぞれの生きものにはそれぞれのくらしがある。良野の生きものたちはどんな工夫をして生きているのか。どんな食べ方、どんな住み方？

良野の生物それぞれが暮らすの仕方に合わせて暮らしを工夫しながら生きていることを知る。住みか食べ物の繋がりに関心を持つ。
「自然や生きものをもっと知りたいたいという意識」

1年

生きものと次代になる。生きものを身近な存在として意識する。

生きものの多様性に気づく。それぞれの生きものの特色を学び取る。自然や生きものとの距離を近づけよう、感じることを表現する。
「自然や生きものとの関係性に関心したいという意識」